

## 平成 28 年 10 月

平成 28 年 10 月 1 日～30 日の間、7 名の有識者等と面会いたしました。また、1 件のイベントに参加いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

### (1) シンクタンク研究者との面談 (28 日)

CSIS のセチェイニ日本部副部長及び茂木客員研究員と面談を行いました。

米大統領選について意見交換するとともに、ヒラリー氏が政権についた場合の対応について考察しました。

### (2) 日本大使主催 : The 62nd Japan Self Defense Forces Day レセプションへの参加 (27 日)

日米安保を担当する政府関係者等が多く集まるレセプションに参加し、以下の方々と会い、それぞれ後日、個別に面会することとなりました。

1. グレグソン元国防次官補
2. ヒル国防省主席部長
3. デミング大使
4. ライク元在沖総領事
5. ドレッサー国務省日本部経済担当
6. エヴァンス国務省対外政策チーフ

### (3) 報道関係者との面談 (17 日)

在ワシントンの報道関係者と意見交換を行いました。

米政権が交代する中、翁長知事と県ワシントン事務所の対応に注目しているとのことでした。

### (4) シンクタンク研究者との面談 (12 日)

CSIS の荒木客員研究員との面談を行いました。この面会は、7月下旬に CSIS の日本人研究員を中心に沖縄の情報や知事の考え方等をまとめた資料を提供していたところ、同氏から「全て目を通した。直接説明を伺いたい」との申し出があったものです。

自分の立場で協力できることを考え、連携して取り組んでいきたいとのことでした。

#### **(5) 報道関係者との面談 (5 日)**

在ワシントンの報道関係者と面談を行いました。

米国政府の今後の人事等について見解を伺うと同時に、トランプ陣営の国務長官候補として目されているリチャード・ハース CFR 会長に対して、沖縄に関する質問をしていただくよう依頼しました。

#### **(6) 大学教授との面談 (3 日)**

ジョージワシントン大学の望月教授と面談を行いました。

沖縄の基地問題全般に対する意見交換を行った後、ワシントンにおいて沖縄に関心を引くための工夫が必要、との提言をいただきました。

### **平成 28 年 9 月**

平成 28 年 9 月 1 日～30 日の間、9 名の有識者等と面会いたしました。また、2 件のイベントに参加いたしました。主な面会先及び内容は、以下のとおりです。

#### **(1) ワシントン DC 沖縄会 春ピクニック (17 日)**

ワシントン DC 沖縄会において 4 月の新春会と並ぶ最大行事となっている春ピクニックに参加させていただきました。

ワシントン DC 近郊の沖縄会メンバー約 150 名が参加されている中、ジョージワシントン大学沖縄コレクションの佐藤司書から当該コレクションについて説明させていただき、沖縄県系アメリカ市民の方々へ沖縄コレクションを直接紹介する大変よい機会となりました。

#### **(2) ジェトロ・ニューヨーク在メリーランド神奈川県事務所 樋口所長の来所 (14 日)**

ジェトロ・ニューヨークのイベントでお会いした横浜銀行の方を介してメリーランド州に所在する神奈川県事務所よりコンタクトがあり、樋口所長が沖縄県ワシントン事務所へ

来所されました。同事務所はジェトロ・ニューヨークの下部組織となっており、神奈川県との同事務所となっているなど説明がありました。

### (3) ジェトロ・ニューヨーク新所長の就任に伴うイベントへ参加 (6日)

ジェトロ・ニューヨークの田中新所長の就任に伴うイベントに招待され参加いたしました。

ジェトロ・ニューヨークとは前任の横田前所長が、昨年7月に沖縄県ワシントン事務所を表敬され、様々なお話しをさせていただいた経緯があります。田中新所長、杉本副所長にも、是非、県事務所へお立ち寄りいただくよう、お話しさせていただきました。

### (4) ニューヨーク沖縄県人会との面会 (5日)



出張の機会を利用してニューヨーク沖縄県人会のロドリゲス副会長ご夫妻、落合ご夫妻と面会いたしました。ロドリゲスご夫妻は一家全員が剛柔流空手の有段者、落合氏は野村流三線の先生で、ニューヨークにおいて積極的に沖縄の文化・芸能の発信に取り組んでおられます。

このような素敵な出会いは、我々駐在員にとって一番の励みとなります。

### (5) コロンビア大学の学生、コーエン研究員との面会 (5日)

沖縄への調査訪問からニューヨークへ戻ったコーエン研究員と面会を行いました。

沖縄での調査視察は充実したものであり、沖縄における基地周辺の街と、日本本土における基地周辺の街は明らかに異なっているとの印象を持ったそうです。今後も沖縄研究を継続し、しっかりと論文をまとめていくとのことでした。